

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人聖ヨゼフ学園 認定こども園聖ヨゼフ幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を幼児の人格形成の基本目標とする。ありのままの自分が受け入れられ、かけがえのない存在として大切にされる存在として大切にされることにより、感謝する心・思いやりの心・祈る心を育てる。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ①愛する子ども [心と体を使い主体的に生きる力を伸ばす] ②活発に体を動かす楽しさを味わう
- ③健康的な大人たちから見守られる環境

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
愛する子ども	A	園外保育での地域の方々との交流や植物・野菜などの収穫体験などを通して、自然のありがたさを実感するとともに、皆で分け合う喜びも感じる事ができた。また、育てることの大変さを知ることで目に見えないことへの感謝の心が育まれた。
活発に体を動かす楽しさを味わう	B	月毎に変わる外遊びの担当を決めることで、遊びの種類も増え、積極的に戸外で活動をする機会も増えた。ただ、目標にしていた繰り返し活動ができる環境の設定については、工夫次第でまだ豊かな環境構成ができたと思う。
健康的な大人たちから見守られる環境	A	多分野の研修会に積極的に参加し、職員間で共有することで現場に活かせることができ、子どもたちとの関わりに一定の効果や変化が見られた。保護者の保育参加（参観）を通して多くの大人と関わる機会が増え社会への安心感が育った。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	重点目標への取り組みを通して、伸び伸びと意欲的に園生活を過ごす子どもたちの姿や周りの大人や社会に安心感をもって、自ら積極的に関わることができたことから、園の教育方針でもある感謝する心・思いやりの心・生命を大切にすることが育ったことを実感できた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境設定	時間や場所の設定を再構築することで子どもたちが経験したことを、満足するまで繰り返す場を設け、一定の効果が得られた取り組みについては今後も内容を充実させながら継続的に取り組んでいく。
保護者との共有	保護者アンケートから、園の教育方針や役割について十分に理解を得られていないことを感じたため、子どもたちのより良い成長に繋がるよう本当の意味の共有ができるよう一方的な発信だけでなく互いにやりとりができる方法や取り組みを考える。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・まずは子どもたちのことや園のことを「知る」機会をもつことがとても大事
- ・外遊びの充実を図ることで活発に体を動かすことができるので環境の設定を考えると良いのでは
- ・保護者と相互理解のため、また園や子どものことを知ってもらうため、保護者参加の行事や見守りボランティアなど取り組み方を工夫していく
- ・パパママ先生の取り組みが今後定着すると良い
- ・市民センターと合同でイベントをすることで、年長者さんや地域の方との交流を図る 学校関係者評価委員
- ・地域の力を活用し安全性も高まるのでは 学校関係者評価委員
- ・マルシェなどの行事をすることで、子どもたちがとても主体性が育ったのではないかと 学校関係者評価委員
- ・子どもたちがひとつひとつの行事に主体的に“参加”することで育ちが豊かになり社会の一員となる 学校関係者評価委員

1.2歳児

自己評価の総括表

聖ヨゼフ幼稚園

2024 年度

名前

記入日

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					コメント		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	評価結果に関する意見等
① 心愛とする体を子どもの主体的にもに生きている力を伸ばす	意欲的に遊べるような環境の構成	4	教具をこまめに入れ替え、意欲が継続するよう配慮する。	3.3	4	様々なものに目を広げていく。	3.5	3.4 A	・夏休み中に教具を作って種類を増やしたり研修で学んだ事を取り入れてきた。もう少しこまめな入れ替えと、教具だけでなく、生活に沿った環境を作るのが次の課題と感じる。 ・日頃の教具のこまめな入れ替えをもっと意識出来るよう努めていきたい
		3	発達段階や興味に合う玩具、絵本、遊具を準備する。		3	自分で選び、活動する。			
		2	様々な種類の玩具を準備する。		2	繰り返し行い、楽しむ。			
		1	園内環境の中にある遊具などで遊びを知らせる。		1	やってみようとする。			
	身近な自然に触れる体験をする	4	季節の植物を育て、その成長を観察する。	2.5	4	四季の違いを五感で感じる。	2.5	2.5 B	・一年を通して計画を立て実践出来れば良かった。 ・定期的な園外保育が定着する所まではいかなかった為、3学期からは担当を持つようにした。今後も継続していきたい ・園外保育や植物を育てる事への環境作りが出来ていなかった。子どもたちは花や植物を見たり水やりは喜んでしたが、職員ももっと目を向け、伝えていく必要があった。
		3	毎月、園外保育を取り入れる。		3	自ら興味を持って自然に触れる。			
		2	花壇の水やりをしたり、季節のものに触れる機会を作る。		2	外での活動を楽しむ。			
		1	戸外遊びなど身近な自然にたくさん触れる機会を設ける。		1	自然にたくさん触れる。			
	基本的生活習慣が身につくよう、身体を使う。	4	出来るようになるよう見守り、出来ないところは援助する。	4	4	一人でも出来るようになったことを喜ぶ。	4	4 A	・毎月の個人目標を職員同士で考えたり、5分会議などでこまめに子どもの様子を伝えるようにした。非常勤の先生も子どもの特徴や段階を踏まえてくれ、子ども自身も無理なく喜んで成長したように感じる。 ・着脱や身支度など、自分で出来るようになった事が増えた。また、家庭と連携しながら排泄の自立も促された。
		3	見守り方を共有し、個人に合った援助を行う。		3	自分からやってみようとし、喜んで繰り返す。			
		2	着脱や身支度など生活の中でたくさん手を使う経験ができるような環境を作る。		2	保育者の援助を受けながら、一緒に行う。			
		1	行かない方を知らせる。見せる。		1	保育者がしていることを見る。			
② 動かす楽しさを味わう	喜んで体を動かす	4	出来るようになった事を認め、自信に繋げる。	4	4	身体を十分に動かし、喜ぶ。	4	4 A	・遊びの時に身体を使う用具を取り入れる事で興味を持ったり、友だちがしている姿を見てやり始める子どももいて環境作りが出来た事が良かった。 ・生活の中でも成長に合わせて環境を整えた。声かけだけでなく、自分で出来る事が増える度に子どもの意欲や喜び繋がっていた。
		3	自分から身体を動かせる環境を作る。		3	保育者や友だちと身体を動かす体験をする。			
		2	生活の中で自分の身体をたくさん使えるようにする。		2	日常生活の中でたくさん身体を使う。			
		1	自分で身体を動かすようになる。		1	身体の動かし方を知る。			
③ 健康な守られた環境	保育者が成長する学び	4	話し合った事を保育の中で実践してみる。	4	4	学んだ事を保育に活かし、充実感を味わう。	3.25	3.6 A	・研修で知り得た事を共有したり、保育の中に取り入れていった。気付いた事はその都度声を出していったが成果について話し合う機会をもっと作り、次の展開など自分たちでやってみると充実感に繋がったと思う。 ・研修に参加する事で、学びを職員間で共有し保育に活かす事が出来た。
		3	得た知識や情報を皆で共有し、保育に活かしていけるよう話し合う。		3	積極的に学ぼうとする。			
		2	研修に参加し、知識を深める。		2	気付いた事を自分から発信していく。			
		1	子どもの様子を職員間で共有する。5分会議を取り入れる。		1	子どもの困っている事に気付く。			
	家庭との連携を密にする	4	保護者の多様な価値観を受け止め、寄り添う。	3.3	4	子どもの成長の変化を知り、子育てに喜びをもつ。	3	3.2 B	・ひまわり組もパパママ先生を取り入れた事で園での日常生活を保護者の方に見てもらい一緒に成長を喜ぶ事が出来た。 ・保護者の多様な価値観を受け止めるよう努めたが、寄り添う所までいけたかどうかは課題である。 ・弟妹の家庭も多かったからか自分の中で解決している印章があった。保護者の多様な価値観をまず受け止めて一緒に考えていこうという姿勢をもっと作りたい。
		3	子どもの成長を共に喜ぶ。(パパママ先生・懇談会)		3	保護者の方から家庭での様子や悩みを伝えてくる。			
		2	日頃の子どもの様子をこまめに知らせる。(連絡帳・送迎時)		2	保護者も園、職員に親近感を持つ。			
		1	担当職員を知ってもらう機会をつくる。		1	担当職員を知り、安心する。			

3.4.5歳児

自己評価の総括表

名前

記入日

／

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果						コメント		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	評価結果に関する意見等	
愛する子ども	自然を愛する	4	植物や野菜や生き物を育てる体験をする	3.9	4	収穫の喜びを感じ、自然の恵みに感謝をする	3.4	3.7 A	<ul style="list-style-type: none"> 野菜、米、花などの生長過程を見たり収穫体験を通して、自然の恵みに感謝し、皆で分け合う喜びを感じることができた 目に見えて自然のありがたさを実感できた 身近なものを育て収穫の喜びを感じられた 育てることの大変さを知ること、自然の恵みや育ててくれた人への感謝へとつながった 	
		3	季節の果物・野菜・花などの教材を準備する		3	知ったことや気づいたことについて、友だちや保育教諭と話し合う姿が見られる				
		2	園外に出て周囲の自然に触れる		2	植物や生き物に興味・関心をもつ				
		1	園庭に出て身近な自然に触れる		1	身近な自然と触れ合うことを喜ぶ				
	人を愛する		4	喜んで人と関わる体験をする	3.7	4	人とともに生きることを喜ぶ	3.6	3.7 A	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に給食を食べたり遊んだり、何気ない日常を喜び、その喜びを言葉でも表現していた 自分のことを話す機会を作ること、互いに質問をしたり共感したり、人と関わることを喜び、相手のことを知ろうとしていた 園外では地域の人との挨拶や交流から社会性を深めることができた 園外その他施設との関わりや交流を増やし、体験の場をより取り入れ人と共に生きることが感じられるようにしたい
			3	地域や保育教諭以外の人と出会う機会を作る		3	身近な人と共感・分かち合うことを喜ぶ			
			2	集会など、相手のことを知る機会を作る		2	自分からすすんで人と関わろうとする姿が見られる			
			1	友だちや保育教諭と挨拶や会話をする		1	友だちや保育教諭と挨拶をしたりされたりすることを喜ぶ			
	ものを愛する		4	その物の成り立ちを調べ知らせる	3.2	4	その物について理解を深め大切に使い、次に使う人への配慮が見られる	3	3.1 B	<ul style="list-style-type: none"> 物の取り扱いについては、教師自身も意識していないと、子どもには伝わらないことを感じた 物を大切に使うことや、次の人のために配慮をする心は育っていった 共有の物の扱いや片付けが、他人事になることがある 年少児も教具や物の使い方をしっかりと理解し、大切に使用している姿が見られた
			3	自由に物を使い大切に使うことを見守る		3	その物への関心を持ち、自分で調べようとしていたり知ろうとしていたりする姿が見られる			
			2	物を使う機会を作る		2	喜んで物を使い片付けようとする			
			1	物の正しい名称と使い方を知らせる		1	物の正しい名称と使い方を知る			
楽しさを体を動かす	園生活のどの場面においても体を使う喜びを味わう	4	子どもが自由に選択できるように、豊かな環境構成に努める	3.1	4	目標を決め、挑戦しようとする姿が見られる	3.9	3.5 A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度新たに設けた『外遊び係』の成果が多少はあったように感じるが、来年度はより充実させていきたい 月間で外遊びの内容や目的を考えることによって、外遊びに行く意欲にもつながった 普段知らない遊びに触れる事ができた 毎月、外遊びの担当が入れ替わり、様々な遊びを行うことで、子どもも自ら遊びを行ったり、ルールを変更して遊びを発展させ楽しむ姿が見られたため、今後も継続して取り組んでいきたい 	
		3	職員間で遊び方や子どもの様子について情報共有を行う		3	自分で選択し、主体的に体を使うことを喜ぶ				
		2	様々な体の使い方、遊び方を知らせる		2	自分の体を使うことの喜びや充実感を感じる				
		1	担当を決め、外遊びの充実を図る		1	自分でやってみようとする				
	体験したことを繰り返し行う		4	体験した活動をその日のうちに繰り返し経験できるようにする	2.8	4	園生活を意欲的に過ごす	3.4	3.1 B	<ul style="list-style-type: none"> 体操や鍵盤ハーモニカ、絵画などは、繰り返し活動ができる時間を可能な限り作れたように思う 繰り返しの場を設けることで、得意不得意がみえてきて、個別に関わることも多少できた その日のうちに繰り返し体験できる環境を用意することができなかった フリータイムの導入は十分に行えなかったが、それぞれの保育室で、活動を繰り返し行える環境設定はでき、子どもたちもその活動に積極的に取り組む姿が見られた
			3	フリータイム（午後）の導入		3	自分から積極的に繰り返し行う			
			2	保育室でも繰り返せる場を用意する		2	自分で出来るが増える			
			1	子どもの活動内容を知り、互いに情報共有をする		1	喜んで活動に参加する			
守健康な環境を大人たちから見	職員の資質向上の取り組み	4	学んだこと、共有したことを保育の中で具体的に実践する	3.4	4	社会性が広がり人との関わりが豊かになる	3.3	3.4 A	<ul style="list-style-type: none"> 夏の研修で学んだことを、実際に保育室の中に活かすことができ、子どもたちにとっても分かりやすく良い姿が見られた 研修会への参加とその後の職員間の報告により資質向上につながった 終礼時のトピックスでは子どものことや職員のことを互いに知ることができ、コミュニケーションを取る良いきっかけとなった 研修会への参加については、例年になくどの職員も積極的に多くの研修に参加することができたが、共有については不十分で課題が残る 共有、実践を行うことはあったが、実践するという点では継続的に行うことは少なかった 	
		3	学んだことを職員間で報告・共有する		3	表現することを楽しんだり互いに伝え合うことを喜ぶ姿が見られる				
		2	積極的に研修会に参加する		2	自分から表現しようとする				
		1	終礼時にトピックスを話す（情報共有）		1	興味を持って人の話を聞く				
	家庭との健全な共有の連携		4	子どもたちの成長を実感してもらえるように直接見てもらい共有する機会を作る（パパママ先生・給食参観以外のこと）	3.4	4	周りの大人から愛されていることを実感し安心して社会の中で過ごすことができる	3.6	3.5 A	<ul style="list-style-type: none"> パパママ先生の取り組みを通して、多くの大人と関わり自ら進んで挨拶をしたり、話しかけたり姿が多く見られ、社会への安心感が育った パパママ先生で来て下さった保護者の方を気持ちよく受け入れている子どもの姿を見て、日頃から沢山のひとと触れ合う機会は大切だと感じた 子どもたちの姿を直接見ていただける機会はいくつか作れたが、計画の弱さがまだまだ課題 SNS発信はほぼできなかった SNSを有効に使うことはできたが、十分ではなかったため、更新頻度を上げられるよう担当内で話し合っていた
			3	子どもたちの成長や様子を直接話して共有する機会を積極的に設ける		3	保護者が園の様子が分かるようになり子どもとの会話が増える			
			2	SNSやヨゼフノートで子どもたちの様子を共有する（月1回以上）		2	周りの大人と笑顔で挨拶や会話をする姿が見られる			
			1	保護者や子どもたちと笑顔で挨拶をする		1	保護者と職員が笑顔で挨拶や会話を交わす姿を見る			